



# 東中だより

目指す学校像  
キャッチフレーズ

生徒一人一人を大切にし 信頼される学校  
蕨東の あいさつ一つで笑東へ

生徒数(名)  
男子 162  
女子 177  
計 339

## 相手の心に届く「ことば」の大切さ

校長 阿部 仁

～「ことばの日」～

5月18日は、5と18で「こ（5）と（10）ば（8）」と読む語呂合わせから「ことばの日」に制定されている。「ことば」を大切に使い、「ことば」によって人と人とが通じ合えることに感謝し、「ことば」で暮らしをより豊かにしたいという制定者の願いが込められていると聞く。

～「ことば」がもつ力～

同じ種類の「ことば」、即ち母語が同じ言語であっても、意志の疎通が容易ではないことがある。自分の意図とは異なる受け止めをされて、『そんなつもりで言ったわけではない』と釈明に追われたり、懇願したりする場面は少なくない。時には、たった一つの「ことば」で、人間関係が修復不可能な状況に陥ることさえあるように思う。その一方で、ある一つの「ことば」によって、自分が救われた気持ちになったり、思いがけない飛躍のきっかけとなったりすることもある。「ことば」には、人を動かし、人の心を揺さぶる力が、確かにある。

～自分の「ことば」で伝えること～

ある学級懇談会において、学級経営方針や年間行事の流れなどを当日参加された保護者向けに説明したことがあった。自分なりに丁寧に、要点を押さえた説明ができたと思っていた。しかし後日、一人の保護者から頂いたお手紙には、次のようなことが書かれていた。『大変失礼かと存じますが、先生のお話

し方は、上手な方であるとは思いますが、私たち保護者のことをお考えになっていないように感じます。』思い当たるフシがあった。事前に準備した資料も、説明原稿も他の先生が作ったものを参考にし、自分で考えたものではなかった。借りてきた「ことば」だけでは、相手には伝わらないばかりか、大変失礼なことをしていることに気づかされた。「ことば」は、自分の身体を通過してこそ、「自分のことば」になり、誰に向けて発するのか、相手のことを配慮した「ことば」を選択するという最低限のマナーを忘れてはならないのだ。

～試合に臨む選手への「ことば」～

今月下旬から、学校総合体育大会地区大会が開催される。3年生にとっては、「最後の夏の大会」である。これまでの練習の成果を大いに発揮してほしいと切に願う。自力を発揮する上では、試合に出場する選手だけでなく、選手への応援（エール）はとても大事である。仲間からの「ことば」がけて、局面が開けてきたり、力いっぱい声援の「ことば」が、自力の発揮につながったり。

まずは、選手たちの力が最大限に発揮できるよう、選手を送り出す際に、先生方がどのような「ことば」を、一人一人、そして部員全員に向けて語るのだから。顧問としての、たくさんの“思い”が込められた「ことば」は、きっと生徒の心に響くに違いない。

-了-